
魔法少女リリカルなのはFREEDOM

Strike Freedom

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはFREEDOM

【Nコード】

N85700

【作者名】

Strike Freedom

【あらすじ】

終わり無き争いは新たな戦いを生む。それは唯一無二の存在、最高のコーディネーターである【キラ・ヤマト】と、その彼ミッドチルダが生きる世界では御伽噺の存在の『魔導師』をも巻き込む。平行世界で、彼らは遂に邂逅する。

注意点 ? キラ主人公の作品。もちろん元来のチートスペックのままなので、嫌いな方はご遠慮を。 ? 不定期更新 以上の条件でも大丈夫な方はどうぞご観覧を。暖かい目で見守ってやって頂ければ幸いです。

P r o l o g u e 『 I f s t o r y 』 (前 書 き)

Prologue 『If story』

少年は走る。ただただ、走る。

己の覚悟を貫いた少年は、結果的に三つの命を見殺しにしてしま
う事になった。

彼の心を苦しめたのは、『誰も死なせない』という誓いを破った
事。

そして、その命を奪ったのは間接的であつたとしても『自分』で
あつた事。

『キラ君！？ 聞こえる！？』

「マリューさん！」

『早く脱出して！ 時間が無いわ！ 殆ど崩れてるわよ！』

「分かりました！」

”キラ”と呼ばれた少年は、そこで一度立ち止まった。

視線の先にあるのは、一つの人型兵器。

モビルスーツと呼ばれる戦闘兵器であり、彼の愛機でもあつた。

「フリーダム…。」

口にした言葉は”自由”を意味する。少年はその機体に取り込み、システムを起動。

崩れる軍事要塞から脱出するために。

「そうだよ、行かなきゃ…。きっと、皆待ってるハズだから。」

そしてその機体は翼を広げる。

蒼き翼は周囲に溶け込む事無く、白と青を基調とした体は傷一つ付いておらず。

正にそれは、《天使》と呼ぶに相応しい姿だった。

「そんなッ…！　ぐうつ…！」

しかしその天使は宇宙^{そふ}にはばたく事は無かった。

モニターに映っていたのは、こちらに迫り来る爆風。

少年は思わず身構える。それが無意味だと知っていても。

様々な思惑が交錯した最終決戦。

この戦いでザフトと対立し、結果的に戦争を終わりへと導いた英雄【キラ・ヤマト】は、その愛機【ストライク・フリーダム】と共に

に消息不明となった。

…ミッドチルダ 機動六課にて。

「次元震？」

『はい。どうでしょうか？』

「うーん…とりあえず、高町一等空尉とテストロッサ執務官に行ってもらおかな？」

『了解しました。』

通信を終えて、その少女は小さく溜め息を漏らす。

『はやてちゃん！』

「あつ、なのはちゃん。頼んだで？」

『うん。次元震って事は最悪のケースも考えられるけど…どうしよつか？』

「その時は…判断は任せるわ。」

『了解！ それじゃ、行ってくるね！』

通信相手の少女【高町なのは】を、【八神はやて】は笑顔で見送

つた。

彼女らが向かう先にある物を知らずに。

Prologue 『If story』(後書き)

遂に邂逅する異質の存在同士。

唯一無二の最高の存在。故に誰からも羨まがれ、誰からも嫉妬されてきた。

望まぬ戦いに身を投じ、その中で戦ってきた。

少年はこの世界で、何を信じ何のために戦うのか。

次回 魔法少女リリカルなのはFREEDOM

『邂逅』

その戦場を駆けろ、ガンダム！

第1話 『邂逅』（前書き）

くお知らせ

あらすじには当初『MSのデバイス化作品』と書いてありましたが、諸事情のためデバイス化は無くなりました。誠に勝手に申し訳ありません。

これからどうぞ、よろしくお願い致します。

第1話 『邂逅』

光が、まぶしい。

これは…何の光だろうか？

暖かくて、それでいて…

「つて…ここ、は…？」

僕はそこで、目を覚ました。

草原…なんだろうか。

土の様な感触じゃない。

何が起こったのかは、僕にも分からなかった。
そこで、記憶を再生させた。

デュランダル議長、レイ、グラディス艦長。
それに、フリーダム…。

「（…！？ そんな、それじゃあ…！）」

全て思い出した。

僕が議長に銃を向けていた事も。レイの弾丸に議長が倒れた事も。グラデイス艦長の言葉も。そして、最後に見た爆風も。

だからこそ、信じられなかった。

すぐに体を起こし、辺りを見回す。

森の中にできた広場、と言えいいのかな。辺りは草木が生い茂ってたけど、僕の半径1km程は平地になっていた。

そして、視界の端に映ったモノ。

それを見た時に、恐らく僕は一番安心したんだと思う。

「良かった…。フリーダム、壊れてないみたいだ…。」

そこには何故か、フェイスシフトを展開したままのフリーダムがいた。

羽も蒼いままだし、装甲も戦闘時と同じ白になってる。

そこで再び、疑問が浮かび上がった。

『何故僕は、コクピットから降りてここにいた？』

という事。

当然自分で降りた覚えは無いし、そもそも意識が無い状態で動くなんてありえないハズ。

凄く不安になって、すぐにフリーダムに乗り込んだ。

「…うん、システムに以上は無し。良かった。」

本当に良かった。

もし飛べない状態だったり、OSが起動できなかったらどうしようと思ってたし。

だけど、不安はさっぱり消えたわけじゃない。
何故僕が生きているのか、ここはどこなのか。

もう一度状況を整理しようとした時だった。
視界に『ソレ』が映ったのは。

「なッ ！ ザクとグフ！？ 何でここに！？」

そう。

モニター越しに見えたのは、緑色のカラーリングが施されたザフト軍のザクと水色のカラーが特徴の最新鋭機体のグフイグナイテッド。

周りの風景は見たことが無い。
けど、何であれがここにいるんだ？

僕の行動は早かった。
いや、無意識だったんだと思う。

「くそっ…！ やるしか無い！」

すぐにバーニアを吹かせて、フリーダムは飛んだ。
腰からビームサーベルを抜く。

連結させる事もできるんだけど、二刀流の方が使いやすいんだ。

敵は三機。

その内グフが二機、ザクが一機。

だけど、僕はもう”二つ”何かを見つけた。

それは、機体の周りを飛び交っている光。

黄色い光と、桃色の光。

綺麗だ、と言いたい所だけど今は当然そんな状況じゃない。

カメラをズームさせてそれを見る。

その光の正体は、信じられないモノだった。

「なっ…人！？ それも女の子！？」

黄色い光の方には、黒い服を着た金髪の女の子。
桃色の光の方には、白い服を着た茶髪の女の子。

アバウトな感じだけど、本当にそうだった。

何か球状の物を撃つたり、放射状のビームらしき物を撃つたりしてる。

けど、それは完璧に弾かれてた。
当然だろう。あれ程強固な装甲を持つモビルスーツに、簡単に傷はつけられない。

「危ない…！ 助けなきゃ！」

そのままバーニアを吹かせ、僕は一直線に彼女らの援護に回った。

くなのは・フェイトサイドく

「ぐうつ…！ この機械、強い…！」

はやてちゃんに言われて次元震の調査に向かった途中、急にこのロボット？が出てきた。

凄く大きい。ガジェット何か比べ物にならないくらいに。

それに装甲も堅い。私のシューターでも弾かれちゃう。

かと言ってフェイトちゃんが近距離戦に持ち込もうとすれば、残りの二機が攻撃を仕掛けてくる。

『押されてる』んだ。

「フェイトちゃん！ 大丈夫！？」

「うん、何とかっ！ でもこれ以上は…！」

そう言った時だ。

一瞬の隙に、フェイトちゃんに向かって斧型の武器が投げられた。大きさはフェイトちゃんの数倍。まともに当たれば墜ちるのは免れない。

既に斧はフェイトちゃんの目前。
私のシューターも間に合わない。

「フェイトちゃんっ！！」

「…！ くっ…！！」

思わず手で顔を覆った時だった。

何かが爆発する音がした。

恐る恐るゆっくりと手をどける。

当然、それは直撃音じゃなかったんだ。

フェイトちゃんは守りきれないと分かってたのかもしれないけど、必死にバインドを張ってた。

けど、そこに斧は無い。

「えっ…？ だ、大丈夫！？」

「う、うん…！ でも…！」

当然私も、当の本人であるフェイトちゃんも分からないみたいだった。

ただ、それが何だったかはすぐに分かった。
私達から見ても左の空。

そこに、何かが飛んでいた。

大きさはさっきの機械と同じ。

ただ、格好が全然違う。

まるで、”天使”のようだ。

「あれは…！？」

「気をつけてなのは！ 新手かも！」

「で、でも…！」

そう、私がともった時だった。

青い空に、蒼い翼が広げられた。

第1話 『邂逅』（後書き）

青き空に広げられた蒼天の翼。

白き天使は閃光と星光と出会い、己の運命の歯車が狂った事に気付く。

同時に魔導師は、新たな”力”を前にする。

次回 魔法少女リリカルなのはFREEDOM
『運命』

塗り替えられた運命を切り開け、ガンダム！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8570o/>

魔法少女リリカルなのはFREEDOM

2011年5月23日05時41分発行